

大学等名	九州共立大学
プログラム名	データサイエンス基礎教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

総合共通科目「データサイエンス入門」1単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数

1 科目

1 単位

履修必須の有無

令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス入門	1	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス入門	1	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス入門	1	○	○	○					

⑦ 「活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス入門	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス入門	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット(6回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会(2回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス(3回目) ・人間の知的活動とAIの関係性(3回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方(3回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)(6回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)(2回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)(2回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)(2回目) ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用(6回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など(8回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決)

(4) 活用に当たった様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・データ倫理：データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護(14回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)(6回目)
	3-2	・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介(1回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(9回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値(9回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)(8回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)(2回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)(2回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)(11回目、12回目、13回目)
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)(7回目) ・データの集計(和、平均)(7回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・コンピュータの基礎用語を理解し、基本的な利用方法を習得し、説明できる。
- ・簡単なレポート作成とそのプレゼンテーションができる。
- ・データサイエンスが社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるかを説明できる。
- ・AIの得意なところ、苦手なところを理解し、人間中心の適切な判断ができる。
- ・社会の実データ、実課題を適切に読み解き、判断ができる。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数
(令和6年5月1日時点)

男性 2384人 女性 548人 (合計 2932人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数												
経済学部	1,759	410	1,700	390	365											390	23%
スポーツ学部	1,173	270	1,020	330	323											330	32%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	2,932	680	2,720	720	688	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	720	26%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
(責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

(目的)
委員会は、本学の教務に関する全学的事項の審議並びに各学部、各研究科及び共通教育センター(以下「学部等」という。)間の連絡・調整を図ることを目的とする。

(審議事項)
委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する

- (1) カリキュラムの編成に関する事項
- (2) 学部等間における教務の連絡及び調整に関する事項
- (3) 学部等間における学年暦の調整に関する事項
- (4) 学部等間における時間割編成及び調整に関する事項
- (5) その他教務に関する全学的事項

⑦ 具体的な構成員

- ① 教務部長、スポーツ学部長 船津京太郎(委員長)
- ② 教務副部長 辰見康剛
- ③ 経済学部長、経済・経営学研究科長 甘長青
- ④ スポーツ学部長、スポーツ学研究科長 長谷川伸
- ⑤ 共通教育センター所長 西尾恵里子
- ⑥ 経済学部教務委員、経済・経営学研究科教務委員 入江雅仁
- ⑦ スポーツ学部教務委員 山田明
- ⑧ スポーツ学研究科教務委員、スポーツ学科長、こどもスポーツ教育学科長 森誠護
- ⑨ 教職課程委員 重枝武司
- ⑩ 教務課長 石倉康代
- ⑪ 学長特別補佐 島尻芳人
- ⑫ 経済・経営学科長 末木将史
- ⑬ 地域創造学科長 貝掛祥広
- ⑭ 経済学部教務員 尾上百合加

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	26%	令和7年度予定	50%	令和8年度予定	75%
令和9年度予定	100%	令和10年度予定	100%	収容定員(名)	2,720

具体的な計画

本プログラムを構成する授業科目「データサイエンス入門」は、令和6年度の入学者以降、全学必修科目であるため、入学者全員が1年次に履修することになる。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

学部・学科に関係なく全学生が受講可能となるよう、上述したとおり、本プログラムを構成する授業科目「データサイエンス入門」は必修科目としている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムの授業科目「データサイエンス入門」は、上述のとおり必修科目であるため、大人数の学生が履修する。このことから、「データサイエンス入門」は、教育効果を高めるため、クラスサイズに上限を設け、全16クラスに分けて運用している。履修については、予めクラスを分けをしたうえで学生に周知し、学生自身が該当するクラスの時間割に履修登録を行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制について、上述のとおり、令和6年度の入学者以降、本プログラムを構成する授業科目「データサイエンス入門」は、必修科目であるため、全学生が履修・修得する教育課程としている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学では、学生ポータルサイト (UNIPA) を通じて、学生が授業担当教員にいつでも質問や相談することとができる。このことに加え、専任教員については、各学期15回のオフィスアワーを実施することとしているため、対面で学生の質問や相談を受ける体制も整えている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

九州共立大学教務委員会

(責任者名) 船津京太郎

(役職名) 教務部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムの履修・修得状況について、本学の全学科(経済・経営学科、地域創造学科、スポーツ学科、こどもスポーツ教育学科)の1年生724名の内、720名が履修し、688名が修了した。
学修成果	本プログラムの学修成果について、各授業回において課題を設け、学修した内容を文章でまとめさせることや、練習問題を解かせることにより、知識の定着を図った。また、最後の授業回においては、学修のまとめとして、レポート(1,500-1,800字)の提出を履修者へ求めた。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本プログラムの内容の理解度について、履修者全員を対象に「授業評価アンケート」を実施した。授業理解度については、「非常に理解できた」「かなり理解できた」と回答した割合が、全体の88%であった。今後は、より授業理解度の向上を図るべく、継続的に授業内容を検証していく。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムの後輩等他の学生への推奨度について、履修者全員を対象とした「授業評価アンケート」の結果では、授業満足度に関し、「非常に満足している」「ある程度満足している」と回答した割合が、全体の87%であったため、後輩等への推奨度は、非常に高いと考えられる。しかし、本プログラムは、必修科目で構成しているため、令和6年度以降の入学者は、全員履修することとなる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムは、前述のとおり、必修科目で構成しているため、全学生の履修が見込まれる。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムは、令和6年度の入学から開設したプログラムであるため、修了して卒業した学生は現時点ではない。ただし、本学では既に、卒業生の進路状況に関するアンケート、および進路先に対する意見聴取アンケートを全学的に実施しているため、継続してアンケート結果を検証していく。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本学と連携している産業界から、本プログラムは、データの正しい解釈と活用に関する体系的な学修に加え、具体的な事例を用いたグループワークやプレゼンテーションをカリキュラムに盛り込んでいる点は、学生が実践的なスキルを習得する上で非常に有効であると高い評価を得た。また、同産業界から、本プログラムにおいて、データリテラシーの深化と倫理観の醸成、実践的な学びの強化、および継続的な学習とキャリアパスを追加することについて提案がなされた。今後は、本プログラムを発展させるため、産業界の提案等を踏まえつつ、検討していく。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>AIやデータサイエンスに関する最新の技術動向や社会実装の事例を授業に取り入れることで、その重要性や有用性を学生に理解させている。特に、EXCELを用いたデータ処理の授業では、生成AIを活用しながら課題に取り組みせることで、AIがどのように業務を効率化し、実務に役立つのかを体験的に学べるようにしている。これにより、数理・データサイエンスの知識が現実社会でどのように応用できるかを実感できるようになっている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>授業スライドを共有（事前配布・授業後の復習用）するとともに、授業評価アンケート（学期中1回）や、UNIPAの機能を活用した毎授業のアンケートを通じて、授業の難易度や理解度を把握し、学生の反応に基づいて適宜調整を行っている。例えば、難易度が高いと感じる学生が多い場合には、補足資料を追加したり、具体的な操作手順を実演する時間を増やすなどの工夫をしている。さらに、生成AIのメリット・デメリットを説明した上で、EXCELのデータ処理や分析を行う際に生成AIを活用しながら演習を取り組んでもらい、学生がAIの活用スキルを身につけられるようにしている。これにより、授業の内容や水準を維持しつつ、より分かりやすく、実務に直結する学びを提供している。</p>

授業CD・科目名	1254 データサイエンス入門				
Subject	Introduction to Data Science				
科目ナンバリング	EED1101	ERD1101	SSD1101 SCD1101	実務経験のある教員による授業	

学部名（研究科名）	経済学部・スポーツ学部	学科名（専攻名）		コース区分	
科目区分	総合共通科目	授業形態	演習	領域区分	
単位数	1単位	開講学期	2024年度前期	年次配当	1年生

担当者	島尻 芳人	専任/非常勤	専任
-----	-------	--------	----

授業概要	デジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける必要がある。さらに、身につけた数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることが求められる。本授業を通して、デジタル社会のあらゆる分野で活躍できるよう情報やデータを扱うための基礎的な知識や技能を身につけることを目指します。そのために、パソコンの基本的な使い方、データサイエンスの概要、データの分析に必要な基礎知識、人工知能(AI)と機械学習の仕組みについて概観します。
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの基礎用語を理解し、基本的な利用方法を習得し、説明できる。 2. 簡単なレポート作成とそのプレゼンテーションができる。 3. データサイエンスが社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるかを説明できる。 4. AIの得意なところ、苦手なところを理解し、人間中心の適切な判断ができる。 5. 社会の実データ、実課題を適切に読み解き、判断ができる。

卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕

九州共立大学HP 学位授与方針 (DP:ディプロマ・ポリシー) 参照
総合共通科目、教職科目、K-CIP関連科目、社会教育主事科目は、【大学全体DP】をご覧ください。
専門教育科目は、各学部学科もしくは各研究科のDPをご覧ください。

【知識・技能】	◎	【思考力・判断力・表現力】	○	【主体性・協働性・倫理性】 ※「倫理性」は2023年度以降の入学生より適用	○
---------	---	---------------	---	--	---

授業内容【具体的に記入。リレー講義は、各回担当者を（ ）で補記。】

※ 最終行に【予復修課題内容】について記載 ※

1. 本学の情報処理施設の利用法・パソコン・キーボード・マウス等の名称および操作方法 ログオン・ログオフ・アイコン・メニュー・Zドライブ・アクティブメールの取り扱い 【予復修課題内容】 シラバスを熟読しておくこと。アクティブメールが使えるようになること。
2. 社会におけるデータ・AI活用①: データ・AIの活用例、データサイエンティストに求められる能力について理解する。 他の授業との関連について理解する。 【予復修課題内容】 データ・AIの活用例について調べておく
3. 社会におけるデータ・AI活用②: AI・機械学習の概要について理解。 AI・機械学習の概要を学び、機械学習をどのような場面で活用ができるかをグループで議論をする。 【予復修課題内容】 AIと機械学習について調べておく
4. Microsoft Wordの使用法①: キーボード入力の解説・書式・フォント・文字修飾・段落・ショートカットキー等の理解 【予復修課題内容】 ショートカットキー（Ctrlキーの使い方）について「各種」調べておく
5. Microsoft Wordの演習課題: Wordによるレポートの書き方を学び、「データ・AIの活用事例」を調査して、レポートにまとめる。 【予復修課題内容】 課題作成のために必要な「データ・AIの活用事例」について調べておく
6. 社会におけるデータ・AI活用③: 社会で起きている変化、社会で活用されているデータについて 【予復修課題内容】 実社会で活用されているデータについて調べておく
7. Microsoft Excelの使用法①: セル・シート・ブック・オートフィル・保存法・文字修飾 社会で活用されているデータを使用して、セルの移動・コピー・計算などの理解 【予復修課題内容】 セルに入力する語句について理解を深めること

8. Microsoft Excelの使用法②：エクセルによる図表作成と各種グラフの取扱いについて 社会で活用されているデータを使用して、データを視覚化する手法である「グラフ」の作成とそのスタイル選択を身に付けるとともに、データ・グラフの見方を身につける。 【予復修課題内容】 エクセルでの「数値」と「文字列」の違いを理解しておく	
9. Microsoft Excelの使用法③：基本統計量の操作法 社会で活用されているデータを使用して、合計・平均・分散・標準偏差を求めるための操作について学ぶ。 【予復修課題内容】 エクセルの「SUM, AVERAGE, VAR, STDEV」の関数の操作について調べておく	
10. Microsoft Excelの演習課題 Excel関数を使った計算処理についてまとめを行う。 【予復修課題内容】 エクセル関数について復修を行っておく	
11. Microsoft PowerPointの使用法①：テキスト入力・書式設定・フォントの調整・スライド作成・写真や図形の挿入等の基本操作を行う。 【予復修課題内容】 パワーポイント使用時の「色を含めた文字装飾」の選び方を調べておく	
12. Microsoft PowerPointの演習課題 第6回の課題を作成した「データ・AIの活用事例」についてのレポートをもとに、3分間のプレゼンテーションを作成する。 【予復修課題内容】 スライド作成時の「アピールポイントのコツ」を調べておく	
13. Microsoft PowerPointを用いたプレゼン① 第12回で作成したプレゼンテーションを用いて、プレゼンを行う。 【予復修課題内容】「プレゼンテーションのコツ」を調べておく	
14. データ・AI活用における留意事項 データ・AIを扱う上での留意事項、データを守る上での留意事項について理解。身近で起こりうるデータ・AIが引き起こす問題について、グループで議論を行う。 【予復修課題内容】 データ・AIが引き起こす課題について調べておく	
15. データサイエンス入門のまとめ Word, Excel, PowerPointを使って、データサイエンス入門のまとめを説明できるようにする。 【予復修課題内容】 これまでの総復習をしておく	
自学自修時間	演習（1単位）1時間／回

成績評価の方法（全体で100%）	
成績評価項目	評価割合
小テスト、感想文など	5%
課題レポートなどの提出物	40%
授業中の発表、討論	10%
授業への参加意欲	20%
自主的学修（予・復修など）	5%
論文、まとめのレポートなど	20%
その他（内容詳細）	

アクティブ・ラーニング	
PBL（課題解決型学習など）／プレゼンテーション／事前学習型授業／実践学習／ミニツッパーパー、レポート	
その他（内容詳細）	

再評価の実施	実施する
--------	------

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
データサイエンティスト入門	野村総合研究所 データサイエンスラボ（編集）	日本経済新聞出版	4532114454	

Office2021	杉本くみ子・大澤栄子	実教出版	9784407359435	情報処理演習I,II,IIIでも使用する
------------	------------	------	---------------	----------------------

参考書

課題（レポート等）や試験に対するフィードバックの方法	UNIPAのQ&Aで受け付ける。
履修における留意事項	家庭や公共な場所で利用するコンピュータとは異なる取り扱いがいくつかあり、自らが作成したファイルを消失させてしまうことが多々発生している。ファイルの保存場所について学んだことが身につけていないと、他の科目においても不利益を被ることが予想される。講義および課題に集中して臨むことで他科目の学びにも繋がる。

履修ガイド

九州共立大学
経済学部
2024

修得済の科目に☑チェックを入れよう

*各科目の年次配当は、学生便覧を参照してください。

(2) 履修科目チェック表

[経済・経営学科]

		総合共通科目			計30単位以上	
区分	科目名	単位数		チェック欄	摘要	
		必修	選択			
教養教育科目 計6単位以上	文化・芸術領域 2単位以上	ことばと日本文化		2		
		スポーツの文化		2		
		ことばと異文化		2		
		情報文化論		2		
	歴史・社会領域 2単位以上	歴史と国際情勢		2		
		現代国家と法(日本国憲法)		2		
		暮らしと経済		2		
		人権・同和教育		2		
	人間・環境領域 2単位以上	人間と哲学		2		
		生命と地球		2		
		心の科学		2		
		共生社会を生きる		2		
言語・異文化理解科目 計6単位以上	日本語	日本語表現法Ⅰ		1		
		日本語表現法Ⅱ		1		
		日本語表現法Ⅲ		1		
	英語 2単位	英語Ⅰ	※1			※外国人留学生は選択 ※外国人留学生は選択
		英語Ⅱ	※1			
		英語コミュニケーションⅠ		1		
		英語コミュニケーションⅡ		1		
		実用英語		1		
	中国語	中国語Ⅰ		1		各言語を母国語とする者はその言語以外の言語を履修すること
		中国語Ⅱ		1		
		中国語Ⅲ		1		
		中国語Ⅳ		1		
		実用中国語		1		
	韓国語	韓国語Ⅰ		1		
		韓国語Ⅱ		1		
		韓国語Ⅲ		1		
		韓国語Ⅳ		1		
実用韓国語			1			
イングリッシュワークショップ			1			
海外研修			2		※年間を通じて適切な時期に行う	
情報教育科目 計2単位以上	データサイエンス入門	1				
	情報処理演習Ⅰ	1				
	情報処理演習Ⅱ		1			
	情報処理演習Ⅲ		1			
健康教育科目	スポーツA		1			
	スポーツB		1			
	健康の科学		2			
キャリア教育科目 計5単位以上	キャリアデザイン領域 5単位	キャリア基礎演習Ⅰ	1		※年間を通じて適切な時期に行う	
		キャリア基礎演習Ⅱ	1			
		キャリア基礎演習Ⅲ	1			
		キャリアデザインⅠ	1			
		キャリアデザインⅡ	1			
		インターンシップ(企業研修)		2		※年間を通じて適切な時期に行う
	キャリア発展領域	スキルアップ講座A		1	(ITパスポート)	
		スキルアップ講座B		1	(TOEICⅠ)	
		スキルアップ講座C		1	(TOEICⅡ)	
		スキルアップ講座G		1	(公務員養成Ⅰ)	
		スキルアップ講座H		1	(公務員養成Ⅱ)	
スキルアップ講座R		1	(TOEICⅢ)			
スキルアップ講座S		1	(TOEICⅣ)			

経済・経営学科
履修計画

(2) 履修科目チェック表

修得済の科目に☑チェックを入れよう

[地域創造学科 2コース 共通]

		総合共通科目			計30単位以上	
区分	科目名	単位数		チェック欄	摘要	
		必修	選択			
教養教育科目 計6単位以上	文化・芸術領域 2単位以上	ことばと日本文化		2		
		スポーツの文化		2		
		ことばと異文化		2		
		情報文化論		2		
	歴史・社会領域 2単位以上	歴史と国際情勢		2		
		現代国家と法(日本国憲法)		2		
		暮らしと経済		2		
		人権・同和教育		2		
	人間・環境領域 2単位以上	人間と哲学		2		
		生命と地球		2		
		心の科学		2		
		共生社会を生きる		2		
言語・異文化理解科目 計6単位以上	日本語	日本語表現法Ⅰ		1		
		日本語表現法Ⅱ		1		
		日本語表現法Ⅲ		1		
	英語 2単位	英語Ⅰ	※1			※外国人留学生は選択 ※外国人留学生は選択
		英語Ⅱ	※1			
		英語コミュニケーションⅠ		1		
		英語コミュニケーションⅡ		1		
		実用英語		1		
	中国語	中国語Ⅰ		1		各言語を母国語とする者はその言語以外の言語を履修すること
		中国語Ⅱ		1		
		中国語Ⅲ		1		
		中国語Ⅳ		1		
		実用中国語		1		
	韓国語	韓国語Ⅰ		1		
		韓国語Ⅱ		1		
		韓国語Ⅲ		1		
		韓国語Ⅳ		1		
実用韓国語			1			
イングリッシュワークショップ			1			
海外研修			2		※年間を通じて適切な時期に行う	
情報教育科目 計2単位以上	データサイエンス入門		1			
	情報処理演習Ⅰ		1			
	情報処理演習Ⅱ			1		
	情報処理演習Ⅲ			1		
健康教育科目	スポーツA			1		
	スポーツB			1		
	健康の科学			2		
キャリア教育科目 計5単位以上	キャリアデザイン領域 5単位	キャリア基礎演習Ⅰ	1		※年間を通じて適切な時期に行う	
		キャリア基礎演習Ⅱ	1			
		キャリア基礎演習Ⅲ	1			
		キャリアデザインⅠ	1			
		キャリアデザインⅡ	1			
		インターンシップ(企業研修)		2		※年間を通じて適切な時期に行う
	キャリア発展領域	スキルアップ講座A		1	(ITパスポート)	
		スキルアップ講座B		1	(TOEICⅠ)	
		スキルアップ講座C		1	(TOEICⅡ)	
		スキルアップ講座G		1	(公務員養成Ⅰ)	
		スキルアップ講座H		1	(公務員養成Ⅱ)	
スキルアップ講座R		1	(TOEICⅢ)			
スキルアップ講座S		1	(TOEICⅣ)			

地域創造学科
履修計画

履修ガイド

九州共立大学 スポーツ学部 2024

*各科目の年次配当は、学生便覧を参照してください。

(2) 履修科目チェック表

修得済の科目に☑チェックを入れよう

[スポーツ学科:全コース共通]

総合共通科目				計30単位以上		
区分	科目名	単位数		チェック欄	摘要	
		必修	選択			
教養教育科目 計6単位以上	文化・芸術領域 2単位以上	ことばと日本文化		2		
		スポーツの文化		2		
		ことばと異文化		2		
		情報文化論		2		
	歴史・社会領域 2単位以上	歴史と国際情勢		2		
		現代国家と法(日本国憲法)		2		
		暮らしと経済		2		
		人権・同和教育		2		
	人間・環境領域 2単位以上	人間と哲学		2		
		生命と地球		2		
		心の科学		2		
		共生社会を生きる		2		
言語・異文化理解科目 計6単位以上	日本語	日本語表現法Ⅰ		1		
		日本語表現法Ⅱ		1		
		日本語表現法Ⅲ		1		
	英語 2単位	英語Ⅰ	※1			※外国人留学生は選択 ※外国人留学生は選択
		英語Ⅱ	※1			
		英語コミュニケーションⅠ		1		
		英語コミュニケーションⅡ		1		
		実用英語		1		
	中国語	中国語Ⅰ		1		各言語を母国語とする者はその言語以外の言語を履修すること
		中国語Ⅱ		1		
		中国語Ⅲ		1		
		中国語Ⅳ		1		
		実用中国語		1		
	韓国語	韓国語Ⅰ		1		
		韓国語Ⅱ		1		
		韓国語Ⅲ		1		
		韓国語Ⅳ		1		
実用韓国語			1			
イングリッシュワークショップ			1			
海外研修			2		※年間を通じて適切な時期に行う	
情報教育科目 計2単位以上	データサイエンス入門		1			
	情報処理演習Ⅰ		1			
	情報処理演習Ⅱ			1		
	情報処理演習Ⅲ			1		
キャリア教育科目 計5単位以上	キャリアデザイン領域 5単位	キャリア基礎演習Ⅰ	1		※年間を通じて適切な時期に行う	
		キャリア基礎演習Ⅱ	1			
		キャリア基礎演習Ⅲ	1			
		キャリアデザインⅠ	1			
		キャリアデザインⅡ	1			
		インターンシップ(企業研修)		2		※年間を通じて適切な時期に行う
	キャリア発展領域	スキルアップ講座A		1	(ITパスポート)	
		スキルアップ講座B		1	(TOEICⅠ)	
		スキルアップ講座C		1	(TOEICⅡ)	
		スキルアップ講座G		1	(公務員養成Ⅰ)	
		スキルアップ講座H		1	(公務員養成Ⅱ)	
スキルアップ講座R		1	(TOEICⅢ)			
スキルアップ講座S		1	(TOEICⅣ)			

スポーツ学科
履修計画

修得済の科目に☑チェックを入れよう

*各科目の年次配当は、学生便覧を参照してください。

(2) 履修科目チェック表

[こどもスポーツ教育学科]

総合共通科目				計30単位以上		
区分	科目名	単位数		チェック欄	摘要	
		必修	選択			
教養教育科目 計6単位以上	文化・芸術領域 2単位以上	ことばと日本文化		2		
		スポーツの文化		2		
		ことばと異文化		2		
		情報文化論		2		
	歴史・社会領域 2単位以上	歴史と国際情勢		2		
		現代国家と法(日本国憲法)		2		
		暮らしと経済		2		
		人権・同和教育		2		
	人間・環境領域 2単位以上	人間と哲学		2		
		生命と地球		2		
		心の科学		2		
		共生社会を生きる		2		
言語・異文化理解科目 計6単位以上	日本語	日本語表現法Ⅰ		1		
		日本語表現法Ⅱ		1		
		日本語表現法Ⅲ		1		
	英語 2単位	英語Ⅰ	※1			※外国人留学生は選択 ※外国人留学生は選択
		英語Ⅱ	※1			
		英語コミュニケーションⅠ		1		
		英語コミュニケーションⅡ		1		
		実用英語		1		
	中国語	中国語Ⅰ		1		各言語を母国語とする者はその言語以外の言語を履修すること
		中国語Ⅱ		1		
		中国語Ⅲ		1		
		中国語Ⅳ		1		
		実用中国語		1		
	韓国語	韓国語Ⅰ		1		
		韓国語Ⅱ		1		
		韓国語Ⅲ		1		
		韓国語Ⅳ		1		
		実用韓国語		1		
イングリッシュワークショップ			1			
海外研修			2		※年間を通じて適切な時期に行う	
情報教育科目 計2単位以上	データサイエンス入門		1			
	情報処理演習Ⅰ		1			
	情報処理演習Ⅱ			1		
	情報処理演習Ⅲ			1		
キャリア教育科目 計5単位以上	キャリアデザイン領域 5単位	キャリア基礎演習Ⅰ	1		※年間を通じて適切な時期に行う	
		キャリア基礎演習Ⅱ	1			
		キャリア基礎演習Ⅲ	1			
		キャリアデザインⅠ	1			
		キャリアデザインⅡ	1			
		インターンシップ(企業研修)		2		
	キャリア発展領域	スキルアップ講座A		1	(ITパスポート)	
		スキルアップ講座B		1	(TOEICⅠ)	
		スキルアップ講座C		1	(TOEICⅡ)	
		スキルアップ講座G		1	(公務員養成Ⅰ)	
		スキルアップ講座H		1	(公務員養成Ⅱ)	
スキルアップ講座R		1	(TOEICⅢ)			
スキルアップ講座S		1	(TOEICⅣ)			

こどもスポーツ教育学科
履修計画

○九州共立大学教務委員会規程

平成26年学園規程第3号

施行：平成26年4月1日

最終改正：令和5年4月1日

(設置)

第1条 九州共立大学（以下「本学」という。）に、九州共立大学評議会規則（平成4年学園規則第2号）第8条の規定に基づき、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、本学の教務に関する全学的事項の審議並びに各学部、各研究科及び共通教育センター（以下「学部等」という。）間の連絡・調整を図ることを目的とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) カリキュラムの編成に関する事項
- (2) 学部等間における教務の連絡及び調整に関する事項
- (3) 学部等間における学年暦の調整に関する事項
- (4) 学部等間における時間割編成及び調整に関する事項
- (5) その他教務に関する全学的事項

(組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務部長
- (2) 教務副部長
- (3) 各学部長
- (4) 各研究科長
- (5) 共通教育センター所長
- (6) 各学部教務委員会から学長が推薦する教育職員 各1名
- (7) 各研究科教務委員会から学長が推薦する教育職員 各1名
- (8) 教職課程委員会委員から学長が推薦する教育職員 1名
- (9) 教務課長
- (10) その他学長が必要と認めた職員

(任期)

第5条 前条第6号から第8号まで及び第10号に定める委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、教務部長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した職員がその職務を代行する。

(議事)

第7条 委員会は、委員の2分の1以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決定する。ただし、可否同数の場合は、委員長の決するところによる。

(委員以外の職員の出席)

第8条 委員会は必要に応じて、委員以外の職員の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(学部等教務委員会)

第9条 委員会に次の学部等教務委員会（以下「学部等委員会」という。）を置く。

- (1) 経済学部教務委員会
- (2) スポーツ学部教務委員会
- (3) 経済・経営学研究科教務委員会
- (4) スポーツ学研究科教務委員会
- (5) 共通教育センター教務委員会

(学部等委員会の審議事項)

第10条 学部等委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育、研究及び運営に関する事項
- (2) 教務課程の編成に関する事項
- (3) その他学部等の教務に関する事項

(学部等委員会の組織)

第11条 第9条に規定するそれぞれの学部等委員会は、次の各号に掲げる職員をもって組織する。

- (1) 学部等の長
- (2) 所属する学部の学科長、共通教育センターにあつては副所長

(3) 学部等からそれぞれ学長が推薦した教育職員 各2名

(4) その他学長が必要と認めた職員

(学部等委員会委員の任期)

第12条 前条第3号及び第4号に定める委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

ただし、欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(学部等委員会委員長)

第13条 第9条に規定するそれぞれの学部等委員会に委員長を置き、学部等の長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した職員がその職務を代行する。

(事務)

第14条 委員会の事務は、教務課において処理する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

○九州共立大学教務委員会規程

平成26年学園規程第3号

施行：平成26年4月1日

最終改正：令和5年4月1日

(設置)

第1条 九州共立大学（以下「本学」という。）に、九州共立大学評議会規則（平成4年学園規則第2号）第8条の規定に基づき、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、本学の教務に関する全学的事項の審議並びに各学部、各研究科及び共通教育センター（以下「学部等」という。）間の連絡・調整を図ることを目的とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) カリキュラムの編成に関する事項
- (2) 学部等間における教務の連絡及び調整に関する事項
- (3) 学部等間における学年暦の調整に関する事項
- (4) 学部等間における時間割編成及び調整に関する事項
- (5) その他教務に関する全学的事項

(組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務部長
- (2) 教務副部長
- (3) 各学部長
- (4) 各研究科長
- (5) 共通教育センター所長
- (6) 各学部教務委員会から学長が推薦する教育職員 各1名
- (7) 各研究科教務委員会から学長が推薦する教育職員 各1名
- (8) 教職課程委員会委員から学長が推薦する教育職員 1名
- (9) 教務課長
- (10) その他学長が必要と認めた職員

(任期)

第5条 前条第6号から第8号まで及び第10号に定める委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、教務部長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した職員がその職務を代行する。

(議事)

第7条 委員会は、委員の2分の1以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決定する。ただし、可否同数の場合は、委員長の決するところによる。

(委員以外の職員の出席)

第8条 委員会は必要に応じて、委員以外の職員の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(学部等教務委員会)

第9条 委員会に次の学部等教務委員会（以下「学部等委員会」という。）を置く。

- (1) 経済学部教務委員会
- (2) スポーツ学部教務委員会
- (3) 経済・経営学研究科教務委員会
- (4) スポーツ学研究科教務委員会
- (5) 共通教育センター教務委員会

(学部等委員会の審議事項)

第10条 学部等委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育、研究及び運営に関する事項
- (2) 教務課程の編成に関する事項
- (3) その他学部等の教務に関する事項

(学部等委員会の組織)

第11条 第9条に規定するそれぞれの学部等委員会は、次の各号に掲げる職員をもって組織する。

- (1) 学部等の長
- (2) 所属する学部の学科長、共通教育センターにあっては副所長

(3) 学部等からそれぞれ学長が推薦した教育職員 各2名

(4) その他学長が必要と認めた職員

(学部等委員会委員の任期)

第12条 前条第3号及び第4号に定める委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

ただし、欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(学部等委員会委員長)

第13条 第9条に規定するそれぞれの学部等委員会に委員長を置き、学部等の長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した職員がその職務を代行する。

(事務)

第14条 委員会の事務は、教務課において処理する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

大学等名	九州共立大学
教育プログラム名	データサイエンス基礎教育プログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和7年度

取組概要



プログラムの目的

デジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活や仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける必要がある。さらに、身につけた数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることが求められる。

本プログラムを通して、デジタル社会のあらゆる分野で活躍できるよう情報やデータを扱うための基礎的な知識や技能を身につけることを目指す。そのために、パソコンの基本的な使い方、データサイエンスの概要、データの分析に必要な基礎知識、人工知能(AI)と機械学習の仕組みについて概観する。

